

地方都市部における小学生の遊びに関する調査研究(3) : 福井県福井市の小学生の生活と遊び実態

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-12-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 粟原, 知子, 熊澤, 栄二 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10098/10508

【7-4】

地方都市部における小学生の遊びに関する調査研究(3)
- 福井県福井市の小学生の生活と遊び実態 -

正会員 ○ 栗原 知子*
正会員 熊澤 栄二**

子ども 小学生 遊び
生活 地方都市 福井

1. 背景と目的

子どもは遊びを通して自主性や創造性、社会性など様々な能力を身につける。しかし、子どもの遊び環境の悪化が指摘されてから既に40年以上が経過しており、子どもの遊びに必要な「空間」「時間」「仲間」の3つの「間」の減少いわゆる「サンマの喪失」は、近年では日本の都市部に限らず地方都市でも進行している。また、少子化、過疎化等の社会問題に加え、スマートフォンの登場で、子どもの生活環境は大きく変化した。さらにライフスタイルの多様化の影響も加わり、小学校区の地区特性によっても遊び環境に格差が生じ始めていると考えられる。

よって本研究では、地方都市部（福井県福井市）の小学生の生活や遊び実態を明らかにすることを目的としている。本稿では、福井市の小学生の余暇時間（平日の放課後及び休日）の過ごし方及び遊びの実態を明らかにし、主に性別、学年別に考察することを目的とする。

2. 調査概要

福井県福井市の小学校9校（中心部、郊外部、農山村部から各3校を抽出）の2, 4, 6年生を対象に¹⁾ 2017年6月～7月の2カ月間でアンケート調査を実施した。各クラス担任の立会いのもと調査を実施し、合計643名の児童から回答を得た。

調査の内容は、①基本情報（性別、学年、家族構成、起床就寝時間、児童クラブ・スポーツ少年団・習い事等の利用状況等）、②時間の使い方（テレビ、インターネ

ット、IT機器の利用状況等）、③遊び環境（遊び時間・場所・内容・仲間、各遊び別詳細調査等）、④考え方や意識（学校生活、家庭生活、友人関係や心情等）とした²⁾。調査概要と児童の基本属性を表1に示す。

回答者の性別は、男子51.3%、女子48.7%、学年は、2年生29.5%、4年生34.2%、6年生36.2%であった。対象校9校は地区の特性別に「中心市街」「郊外」「農山村」の3種に分類し、それぞれ回答者の所属は、39.3%、40.1%、20.5%であった。

また、世帯構成人数（本人含む）は「2人」2.4%、「3人」11.6%、「4人」33.2%、「5人」23.2%、「6人」15.5%、「7人」11.0%、「8人以上」3.1%と、4人家族が最も多く、次いで5人・6人家族が多かった（図1）。

3. 余暇時間の使い方

平日（放課後）及び休日の過ごし方として、児童クラブ等³⁾ 利用者は18%、スポーツ少年団入団者の割合は32.9%であった（図2）。1週間に習い事をしている日数は、1～3日間の割合がそれぞれ約17～19%であり、週に4日以上通う割合が30%を超えた。何の習い事もしない児童の割合は14.6%で、全体の約85%が何らかの塾・習い事に通っている（図3）。また、児童クラブ等、スポーツ少年団、塾・習い事のいずれにも所属しない児童は、10.7%であった。

表 1. 調査概要及び基本属性

生活と遊びに関するアンケート調査			
調査期間	2018年6月～7月		
調査方法	各クラス担任立会いのもと授業時間に実施		
回収率	94.1%（回収数643/配布数666）		
調査対象者	2, 4, 6年生 643名（※1校のみ2年生未実施）		
性別	男子	女子	
	325 (51.3%)	308 (48.7%)	
学年	2年生	4年生	6年生
	190 (29.5%)	220 (34.2%)	233 (36.2%)
調査対象校の地区特性	中心市街	郊外	農山村
	253 (39.3%)	258 (40.1%)	132 (20.5%)

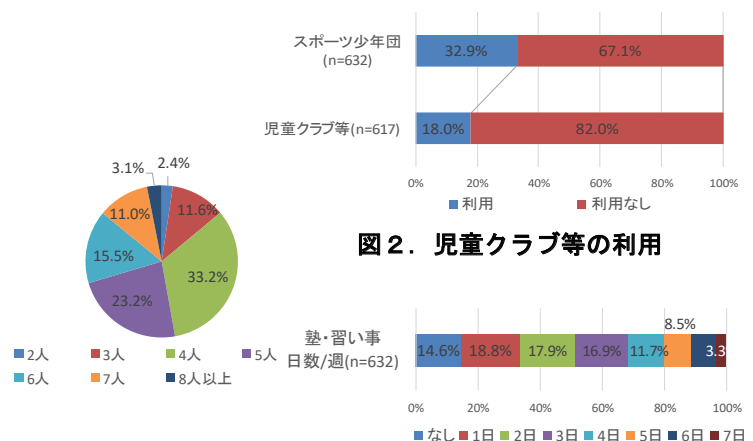


図 1. 世帯構成人数

図 3. 塾・習い事の日数/週

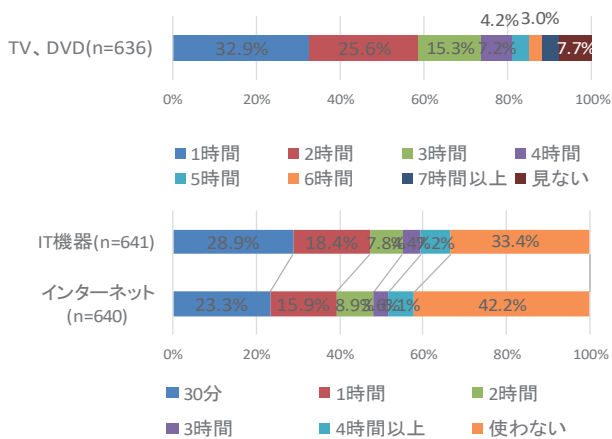


図4. TV等視聴時間及びIT機器等使用時間

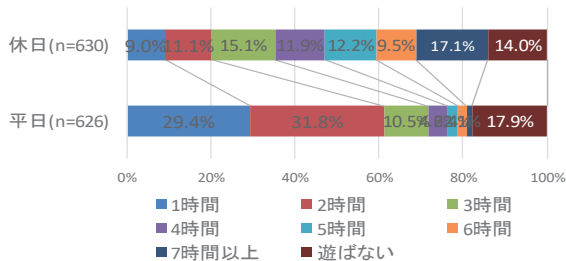


図5. 平日及び休日の遊び時間

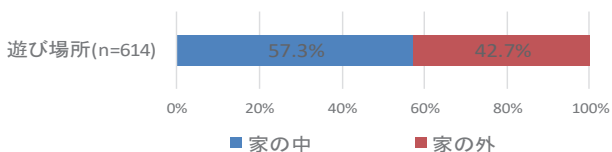


図6. 遊び場所屋内外嗜好

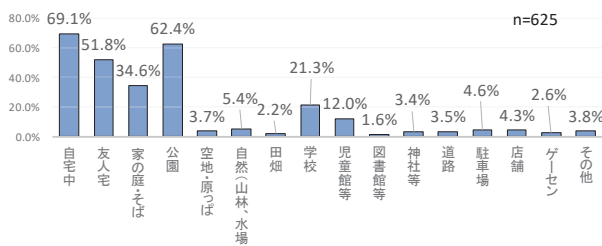


図7. よく遊ぶ場所

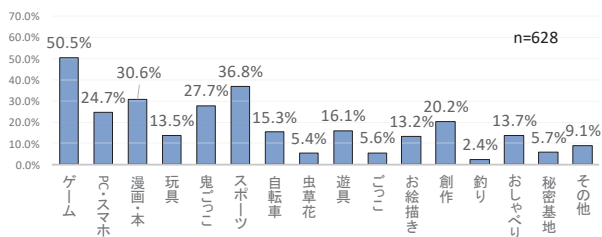


図8. よくする遊び

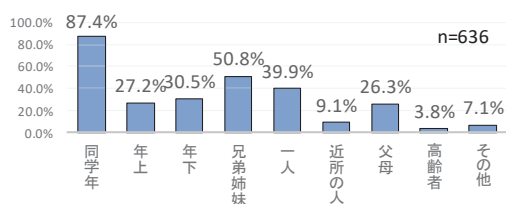


図9. 遊び仲間

図4は、TV・DVD視聴時間とIT機器使用時間を示している。「毎日だいたいどのくらいTVやDVDを見るか」との質問に対し、「1時間」が32.9%と最も高く、次いで「2時間」が25.6%、「3時間」が15.3%となり、4時間以上視聴する割合は2割を切った。

IT機器(PCやスマートフォン、タブレット端末等)の使用時間については、「使わない」が最も多く33.4%、「30分」が28.9%、「1時間」が18.4%で、2時間以上の利用は2割程度であった。

インターネット動画視聴時間は、IT機器使用よりもさらに短く、「使わない」が42.2%、「30分」が23.3%、「1時間」が15.9%で、こちらも2時間以上の利用は2割を切った。

4. 遊びの状況

(1) 遊び時間

図5は、平日(放課後)及び休日のそれぞれの遊び時間を示している。平日の遊び時間は、「2時間」が最も多く31.8%、次いで「1時間」29.4%であった。3時間以上遊ぶ児童は約2割であった。また「遊ばない」と回答した児童が17.9%に上った。

休日の遊び時間は、平均して平日よりも長い傾向がみられた。最も多かったのは「7時間以上」で17.1%、次いで「3時間」が15.1%であった。その他の回答はそれぞれ10%前後であった。「遊ばない」の回答は休日でも多く見られ14%であった。

(2) 遊び場所・内容・仲間

「家の中と家の外どちらで遊ぶことが多いか」の質問に対する回答を示したのが図6である。「家の中」と回答した児童は57.3%で、「家の外」と回答した児童を上回った。

図7は、児童がよく遊ぶ場所について示している。16の選択肢からよく遊ぶ場所を3つまで回答してもらった。その結果、最も多かったのは、「自宅中(自分の家の中)」で69.1%、次いで、「公園」62.4%、「友人宅(友人の家の中)」51.8%、「家の庭・そば」が34.6%で住居及びその周辺と公園が主な遊び場であった。

図8は、児童がよくする遊びについて示している。16の選択肢からよくする遊びを3つまで回答してもらった。その結果、最も多かったのは「ゲーム」で50.5%、次いで「スポーツ」36.8%、「漫画・本」30.6%、「鬼ごっこ」27.7%、「PC,スマートフォン」が24.7%で、ゲームの人気の高いながらも、スポーツや鬼ごっこといった体を動かす遊びや読書など静的な遊びも人気がある。

図9は、児童がよく遊ぶ相手について示している。9つの選択肢から3つまで選択してもらい、最も多かったのは「同学年」の友人87.4%であった。「兄弟姉妹」50.8%、「父母」39.9%と家族が遊び相手である児童も多く、「年上」27.2%、「年下」30.5%と異学年での遊びも見られた。また、「一人」の回答は39.9%にのぼった。

5. 性別及び学年別にみる傾向

(1) 生活状況における特徴

性別及び学年別に放課後の過ごし方、時間の使い方について考察を行う。

児童クラブ及びスポーツ少年団の所属率（図 10）を見ると、低学年で児童クラブ所属率が高く、中・高学年でスポーツ少年団の所属率が高い。またスポーツ少年団は女子より男子の割合が高いことがわかる。同様に塾や習い事の日数も、中・高学年で多くなっている。

次に、メディア視聴時間及び IT 機器の使用（図 12 及び 13）については、いずれも低学年より中・高学年で、女子より男子で、視聴時間及び使用時間が長い傾向にある。また、2 年生のネット動画視聴率は約 4 割、IT 機器使用率は半数を超えており、インターネットや IT 機器が身近な存在になっていることがうかがえる。

全体的に、低学年に比べて高学年ほど、純粋に遊びに費やせる時間が少ない傾向がうかがえる。

(2) 遊びにおける特徴

次に、遊び環境について考察を進める。遊び時間をみると（図 13）、平日、休日ともに、女子よりも男子が長く遊ぶ傾向がみられる。学年別にみると、平日では低学年ほど「遊ばない」の割合が高く「2 年生」は 23.9%もの児童が遊んでいないことがわかる。しかし、3 時間以上遊ぶ児童の割合は他学年に比べて多く、遊び時間の二極化傾向がうかがえる。4 年生と 6 年生を比較すると、

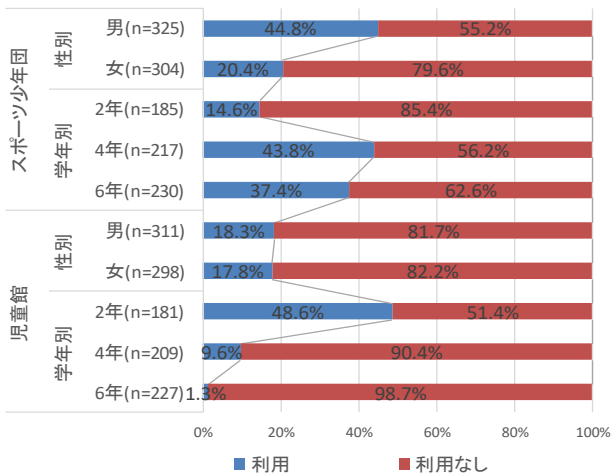


図 10. 性別及び学年別にみる放課後の過ごし方

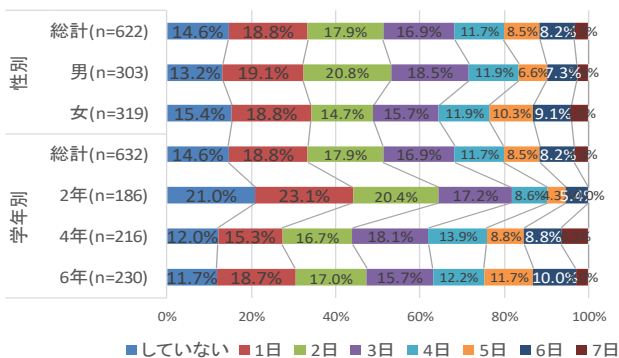


図 11. 性別及び学年別にみる塾・習い事の日数

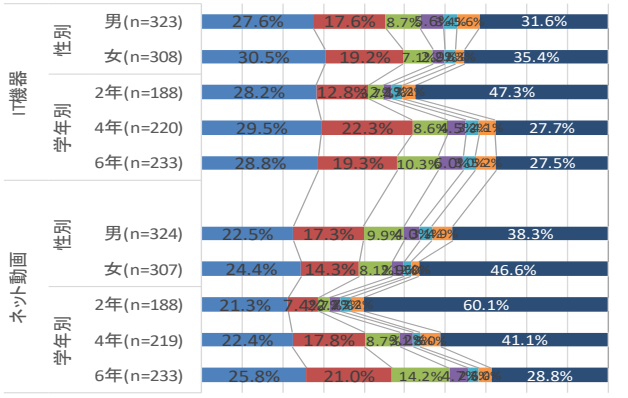
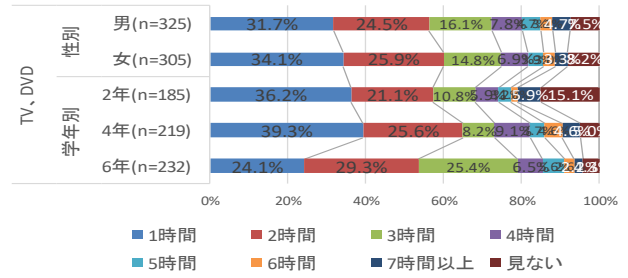


図 12. 性別及び学年別にみる動画視聴時間及び IT 機器使用時間

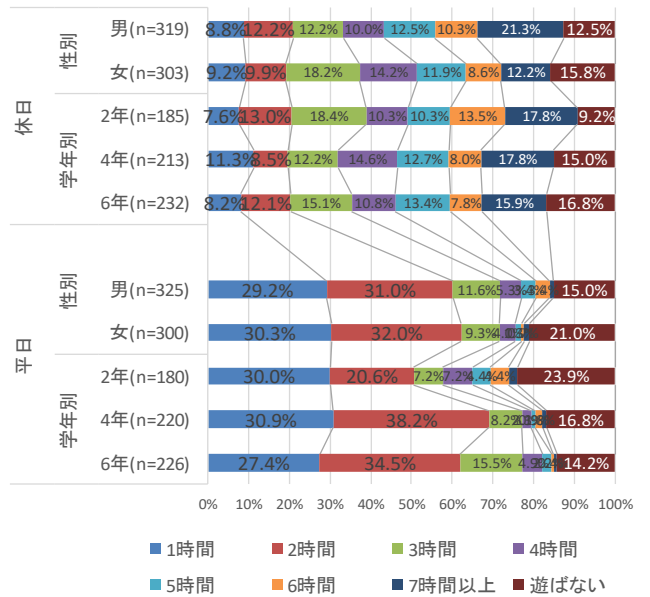


図 13. 性別及び学年別にみる遊び時間

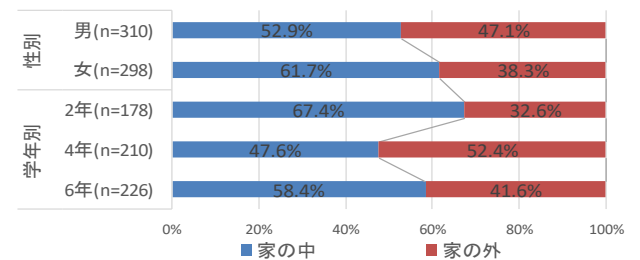


図 14. 性別及び学年別にみる遊び場所屋内外嗜好

6年生の方が遊び時間が長くなる傾向がみられた。休日の遊び時間については、低学年ほど遊び時間が長い傾向がみられた。

遊び場所の屋内外嗜好(図14)については、女子よりも男子が「家の外」を多く選択しており、学年別には「4年生」が最も高かった。

「遊び場所」(図15)の特徴としては「女子」に比べて「男子」の方が屋外の遊び場を選択する割合が高く、学年別にみると高学年になればなるほど、住宅内や公園の割合が高くなり、低学年ほど多様な遊び場が選択される傾向にある。また「2年生」は「図書館」を選択する児童が他学年に比べて高い。

「遊び内容」(図16)については、男女で大きく特徴が異なり、「男子」は「ゲーム」「スポーツ」を選択する割合が目立つ一方、女子は多様な遊びを展開している。学年別に見ると、高学年になるほど、「ゲーム」「スポーツ」を選択する割合が上がり、特に「2年生」は多様な遊びが展開され、「創作」「お絵描き」など創作活動の割合が他学年に比べて高い。

「遊び仲間」(図17)については、異学年の相手として「男子」は年上年下の友人を選択し、「女子」は家族(兄弟姉妹・父母)を選択する割合が高い。また「男子」は一人遊びの割合も高い。学年別には、低学年ほど家族と遊ぶ割合が高く、高学年ほど「同学年」の割合が高い。

6. まとめ

以上を踏まえ、以下に性別及び学年別の傾向を表2にまとめる。

表2. 性別及び学年別にみる生活と遊びの傾向

性別・学年別傾向		性別		学年			
		男子	女子	低学年	中学年	高学年	
放課後・休日の過ごし方	児童クラブ等利用率	△	△	◎			
	スポーツ少年団利用率	◎	△		○	△	
メディア・IT関係	塾・習い事	少 ← 多		少 ← 多		中	
	TV/DVD視聴	長 ← 短		短 ← 長			
	視聴無し率			△			
	ネット動画視聴	長 ← 短					
	視聴無し率	△	○	◎	○	△	
	IT機器使用	長 ← 短		短 ← 長			
遊び	時間	平日	長 ← 短	長 ← 短		中	
		遊ばない率	低 ← 高	高 ← 低			
		休日	長 ← 短	長 ← 短		中	
		遊ばない率	低 ← 高	低 ← 高			
	場所	屋内外	内	内	内	外	内
		詳細	外 ← 内		多様 ← 限定		
	内容	詳細	限定 ← 多様	多様 ← 限定			
	仲間	異年齢傾向	友人 ← 家族	家族 ← 同年			

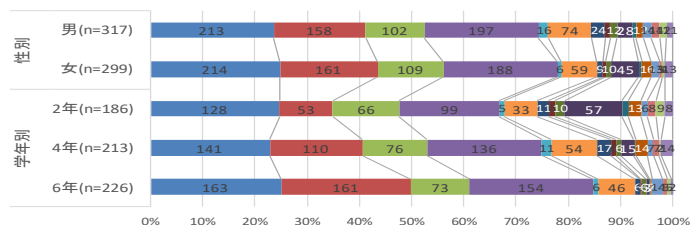


図15. 性別及び学年別にみる遊び場所の傾向

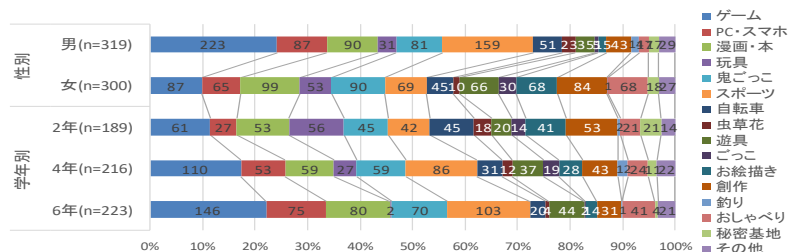


図16. 性別及び学年別にみる遊び内容の傾向

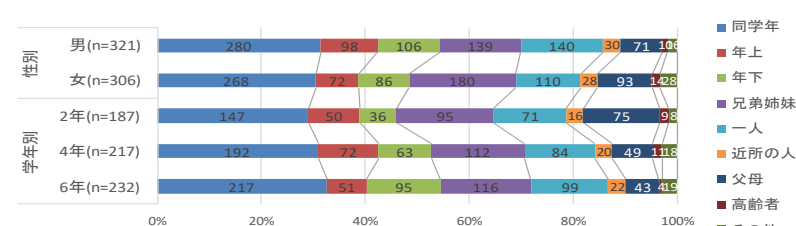


図17. 性別及び学年別にみる遊び仲間の傾向

注

- 1) 中心部の1校のみ、2年生の調査は実施していない。そのため、学年別の児童数割合も2年生がやや低くなっている。
- 2) 調査項目の一部は、4, 6年生のみのものもある。
- 3) 福井市は、児童クラブ及び放課後児童会(児童館)の2事業が主な放課後預かり事業となっている。

参考文献

1. 仙田満, 子どもの遊び環境, 鹿島出版会, 6(2009)
2. 栗原知子他, 地方都市部における小学生の遊びに関する調査研究(2)石川県津幡町における子どものゲーム遊び環境について, 日本建築学会北陸支部研究報告集第55号, 7(2012), pp.333-336.
3. 足利絵理子他, 「小学生の遊び場と遊び内容に関する研究(その1) - 小学校地区特性および学年による比較 -」, 平成21年度日本建築学会近畿支部研究報告集, (2009), pp. 161-164.

※本研究は平成24年度科学研究費補助金によって実施しました